



令和 2 年 9 月 9 日

独立行政法人 国立科学博物館

最後の大規模組立 ―YS-11 量産初号機組立作業―

～9/15(火)水平尾翼・9/17(木)垂直尾翼・ラダー取付作業～

国立科学博物館(館長 林良博)は、クラウドファンディングの支援者募集イベントとして、ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)より YouTube・ニコニコ動画で水平尾翼・垂直尾翼・ラダー取付作業の 24 時間ライブ配信を行います。

9/15(火)13:00 から水平尾翼、9/17(木)12:30 から垂直尾翼・ラダーの取付作業を報道向けに公開します。



ザ・ヒロサワ・シティにて組立中の YS-11 量産初号機

《報道向け公開》

取付作業開始前に整備士による解説を行います。

2020年9月15日(火)13:00～ 水平尾翼取付作業

2020年9月17日(木)12:30～ 垂直尾翼・ラダー取付作業

※事前のプレス登録は不要です。当日現地にて受付いたします。取材は11:00～対応可能です。

場 所: ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市) (<http://www.shimodate.jp>)

航空ミュージアム内(※別添地図参照)

《ライブ配信》

取付作業の様子は定点カメラで24時間ライブ配信いたします。さらに、主要な作業の様子は、臨場感あふれるカメラワークで特別ライブ配信を行います。

＜定点カメラ＞

2020年9月14日(月)9:00～9月18日(金)17:00(予定)

＜特別ライブ配信＞

2020年9月15日(火)13:00～ 水平尾翼取付作業

2020年9月17日(木)12:30～ 垂直尾翼・ラダー取付作業

視聴方法: YouTube、ニコニコ動画にてライブ配信を行います。

開始時刻より URL からご視聴いただけます(アカウントの登録は不要です)。

視聴に関する情報は下記のサイトをご覧ください。

■ネコビデオ ビジュアル ソリューションズの特設 Web ページ

<http://blog.nvs-live.com/?eid=639>

料 金: 無料でご覧いただけます。※お使いの環境によっては、通信料が発生します。

《クラウドファンディング》

国立科学博物館は、我が国唯一の純国産民間輸送機である YS-11 の量産初号機を恒久展示するために、20年にわたり羽田空港で整備・保管してきました。本機を多くの方に見ていただくために、ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)に移設しました。

移設のために分解した機体の組立作業を開始しましたが、昨今の新型コロナウイルスの影響による臨時休館や入場者数制限のために、入館料収入が激減し、財政状況が悪化しており、YS-11を組立て公開するための資金が不足しています。そのため、クラウドファンディングにより資金を募ります。

クラウドファンディングサイト: A-port (<https://a-port.asahi.com/>)

現役飛行中の当機体映像や解体作業や羽田空港からザ・ヒロサワ・シティへの移動の様子組立作業の様子など記事掲載において必要な動画・静止画を御希望の方はメールにて御連絡ください。

【問い合わせ先】

独立行政法人国立科学博物館

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

YS-11 クラウドファンディング担当

Tel: 03-5814-9158 Fax: 03-5814-9899

E-Mail: YS-11project@kahaku.go.jp

YS-11 量産初号機について

1 保存に至る経緯

平成 11(1999)年 1 月に退役する YS-11 量産初号機の保存のため、当時の運輸、文部、通産、大蔵等関係省庁で協議され、国立科学博物館において維持管理が望ましいとの合意がなされた。

国立科学博物館は、平成 11 年 2 月 26 日付で運輸省航空局長宛に YS-11 量産初号機の取得要望書を提出。同年 8 月に運輸省から管理換を受けた。

2 保存目的

当館が保管する YS-11 は、我が国航空機製造事業の期待を一身に受けた量産初号機(製造番号 2003)である。機体登録番号は JA8610 と、YS-11 全機中一番若い番号を与えられている(試作機 2 機の製造番号はそれぞれ 2001, 2002, 機体登録番号は JA8611, JA8612 であった)。

昭和 40 年 3 月に運輸省航空局に納入され、「ちよだⅡ」と命名されて、羽田空港をベースに、飛行検査機として 2 万時間を越える飛行実績を有する。

我が国唯一の純国産開発の民間輸送機であり、国家支援のもと性能・経済性等世界的評価を得て、世界で活躍した YS-11 であり、特に

- ① 我が国航空関係者の「汗と涙」が結晶され、わが国航空機製造事業の期待を一身に受けた栄えある量産初号機
- ② 現存する YS-11 の中で試作機を除く最古の機体
- ③ 我が国の飛行安全確認の点検機として任務を全うした航空機である。

また、平成 19 年には「機械遺産」(日本機械学会)に認定され、さらに、平成 20 年にも「重要航空遺産」(日本航空協会)として認定されている。

※機械遺産……日本機械学会が審査、認定する日本の機械技術発展に寄与したもの。日本機械学会は 2007 年 6 月に創立 110 周年を迎え、その記念事業の一環として、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)を認定することにした。2007 年から始まり、現在まで 76 件が登録されている。

※重要航空遺産…日本航空協会が、歴史的文化的に価値の高い航空遺産を「重要航空遺産」として認定し、その意義を広く社会に知らしめるとともに、後世に遺していくため「重要航空遺産認定制度」を平成 19 年に設立した。平成 20 年に、国立科学博物館が所有する「YS-11 輸送機量産初号機」および埼玉県が所有する「九一式戦闘機」を初の「重要航空遺産」として認定し、現在まで 8 件が登録されている。

このように YS-11 量産初号機は、我が国戦後復興の象徴であり、将来に継承していくべき国民の貴重な財産である。航空機史上重要な価値を持つ YS-11 の中でも記念碑的価値の高い機体であり、我が国の貴重な産業技術資料としての価値を減じないよう、風雨の影響等を避けるための屋内保管や継続的な定期点検の実施など計画的な保存に努め、劣化や損傷、不可逆的な改変を防ぎ、できうる限り移設時の状態に近い形で保存する。

3 保管場所、保管状況

平成 11 年 8 月運輸省から管理換されて以降、当館では YS-11 量産初号機の良い保存に努めるため、風雨を防ぐことができ、また定期的なメンテナンスを行うことが容易である羽田空港内の格納庫で保存を行ってきた。

平成 11 年 6 月 運輸省、文部省、科博、JAL で保管に関する覚書締結

平成 24 年 3 月 国土交通省 T-101 格納庫へ移転

平成 28 年 8 月 空港施設(株)大型格納庫(羽田空港)へ移転

令和 2 年 3 月 27 日 ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)へ移転

令和 2 年 6 月 22 日 組立開始

令和 2 年 7 月 11 日 組立作業一般公開



2019/11/28 の水平尾翼取り外し作業



2019/11/26 の垂直尾翼取り外し作業



2019/11/25 のラダー取り外し作業

ザ・ヒロサワ・シティ案内図



ご案内図



〒308-0811

茨城県筑西市 ザ・ヒロサワ・シティ